

令和5年度 学生生活満足度調査及び生活実態調査

I. 調査時期、対象者数

1. 実施期間：令和6年1月～3月（Web Class でのアンケート）
2. 対象者数・回答者数および回答率

対象者：令和5年度在学学生（休学者を除く令和6年1月1日に在学している者）

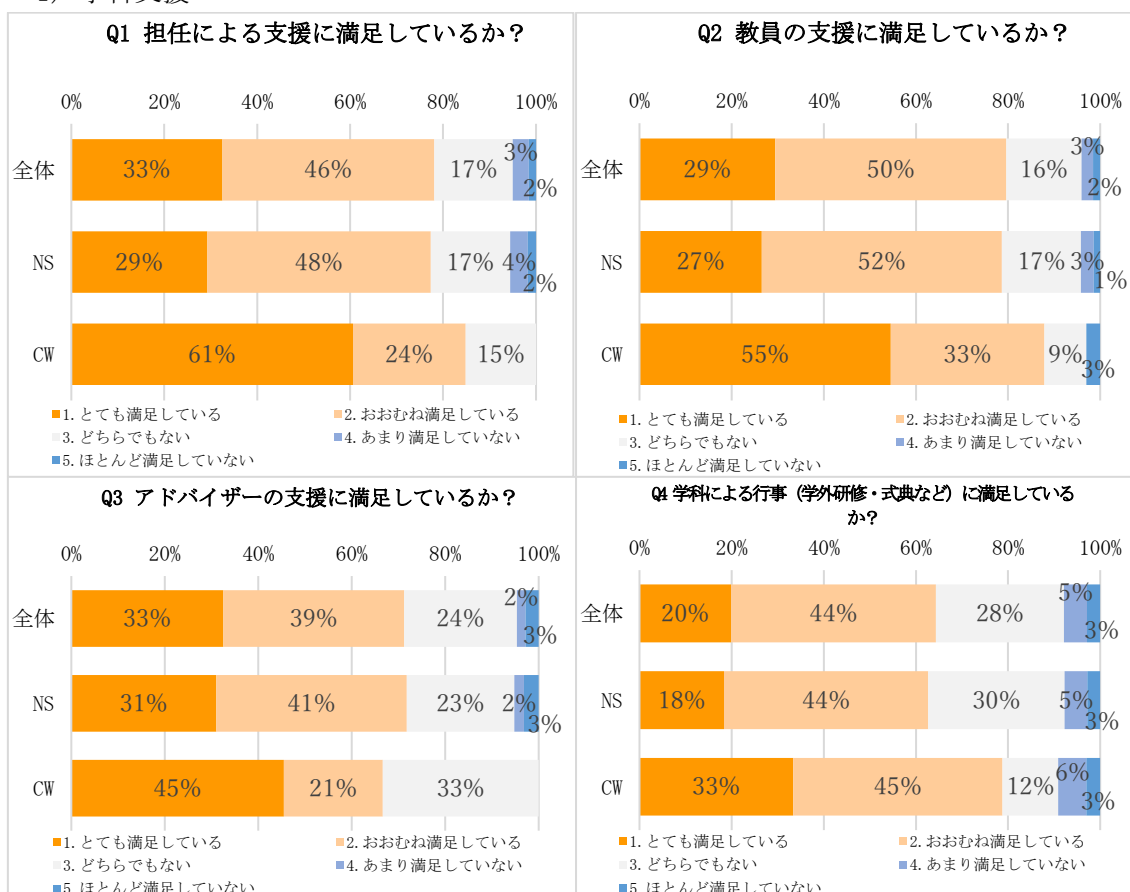
表中の略称について
 NS：看護学科
 CW：医療介護福祉学科

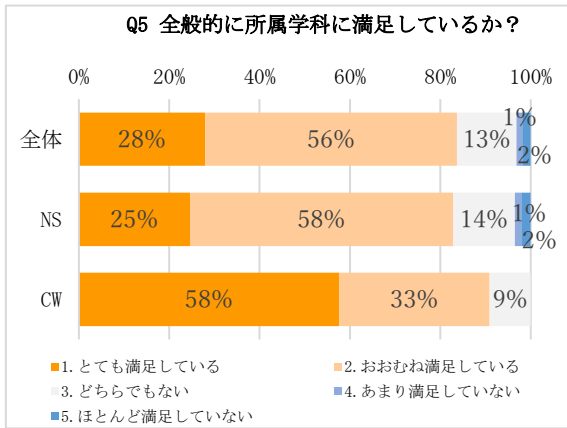
	看護学科				医療介護福祉学科				合計 (内卒業予定者)
	1年次生	2年次生	3年次生 (内卒業予定者)	学科計	1年次生	2年次生	3年次生 (内卒業予定者)	学科計	
対象者数： 人	91	107	137 (116)	335	10	12	13 (11)	35	370 (127)
回答者数： 人	67	104	116 (116)	287	9	12	13 (11)	34	321 (127)
回答率： %	73.6	97.2	84.7 (100.0)	85.7	90.0	100.0	100.0 (100.0)	97.1	86.8 (100.0)

II. アンケート結果

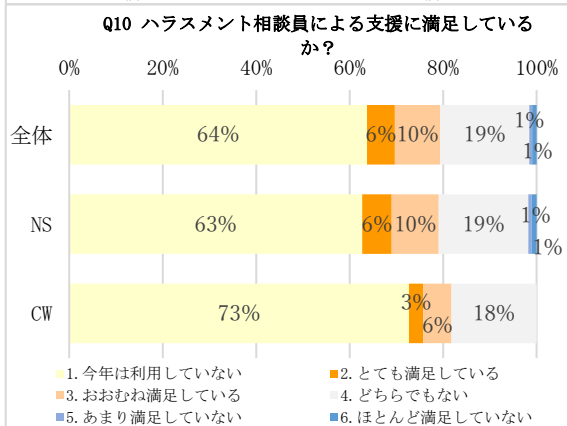
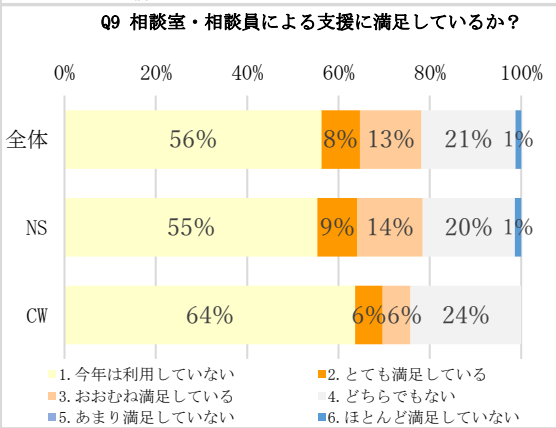
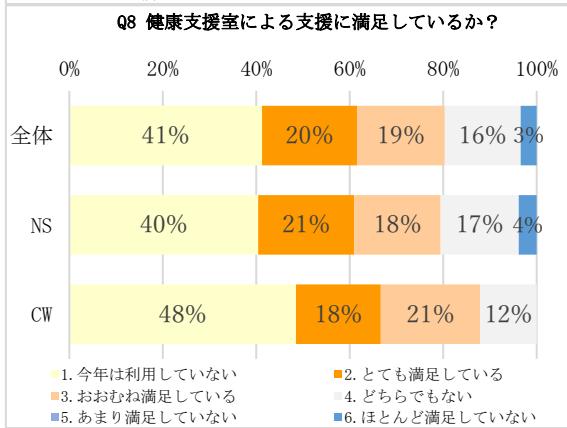
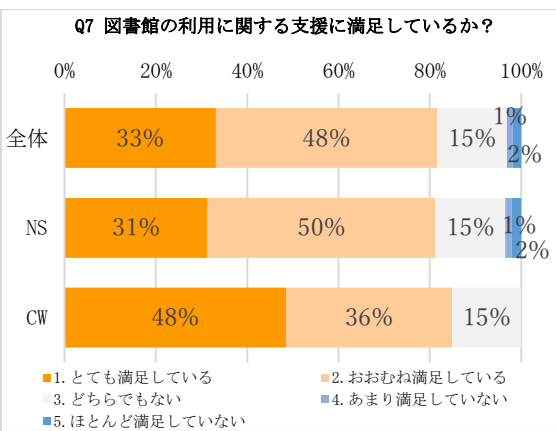
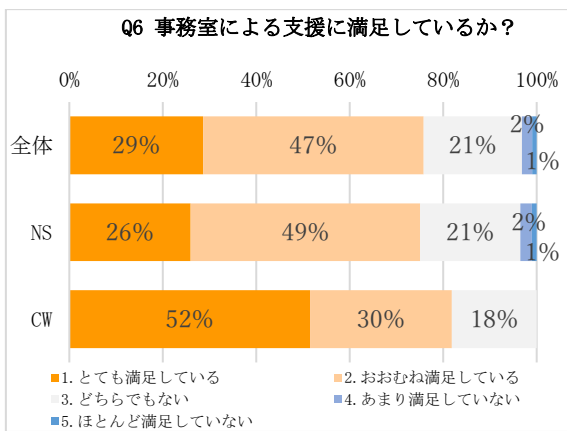
1. 大学生生活満足度（有効回答者数 NS282～287 CW33）

1) 学科支援

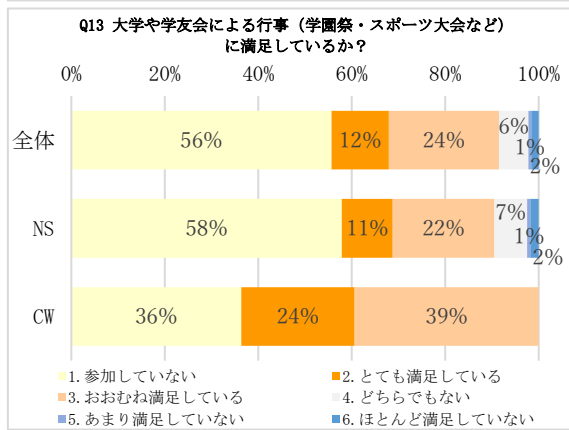
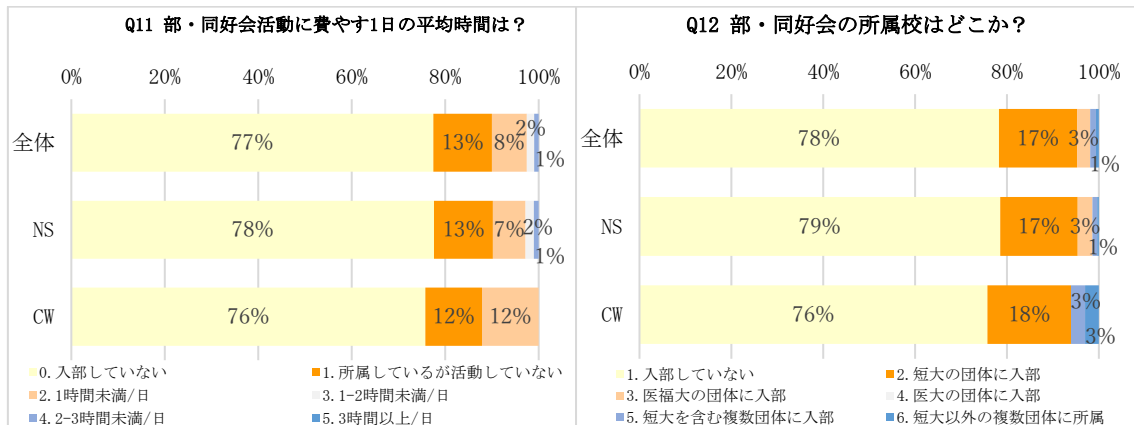




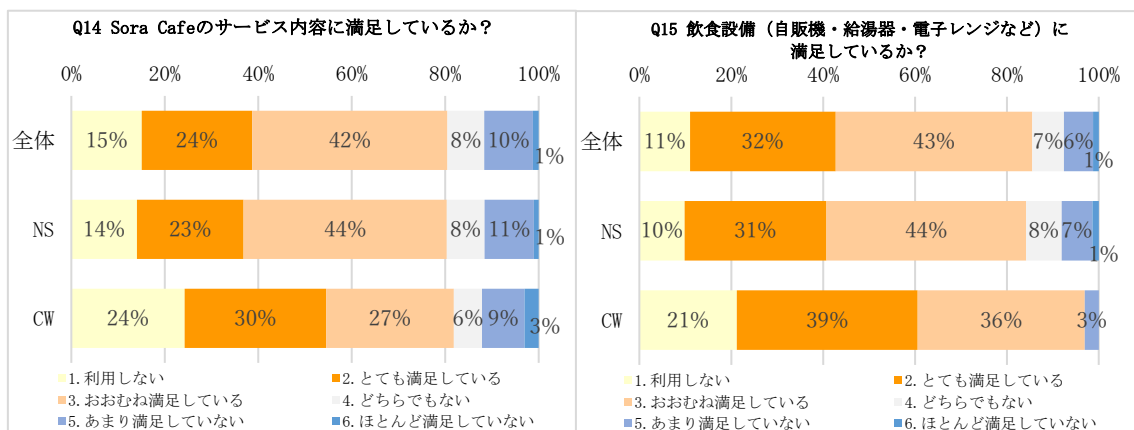
2) その他の部署の支援

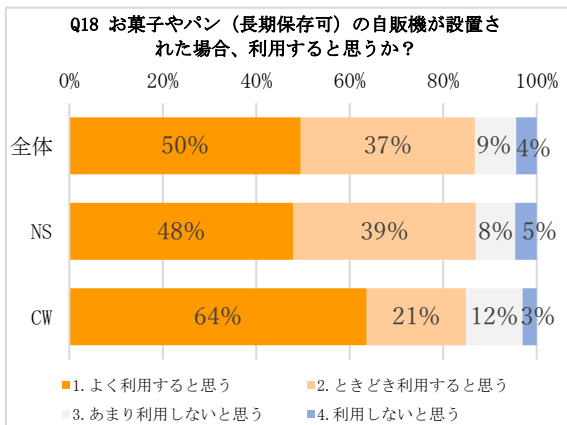
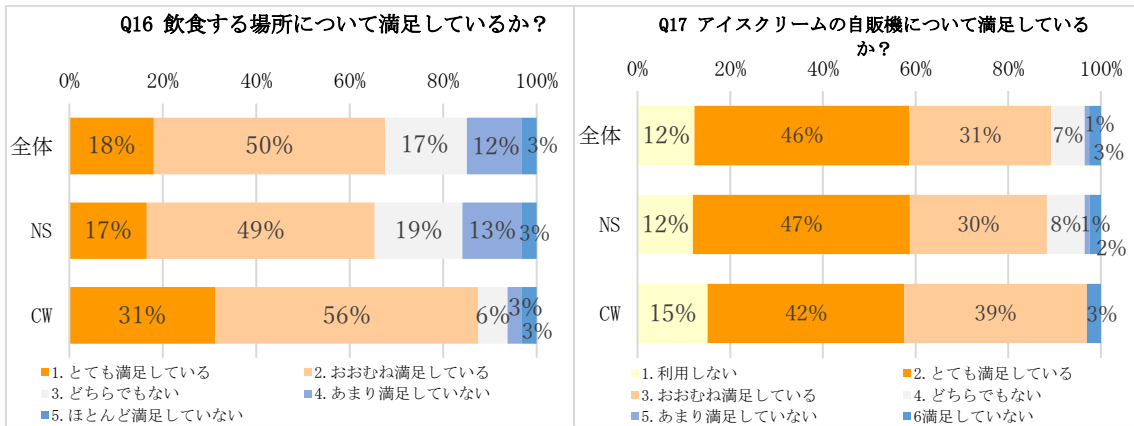


3) 学友会（部・同好会）の活動について

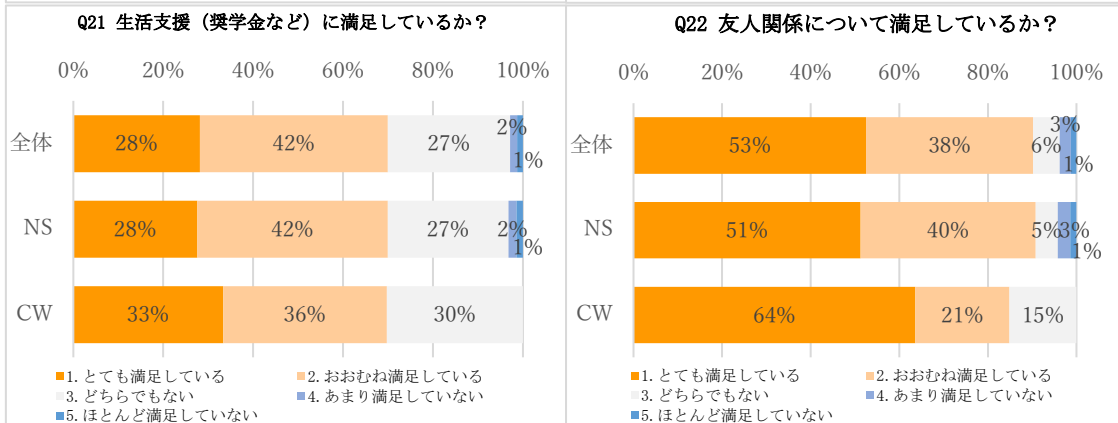
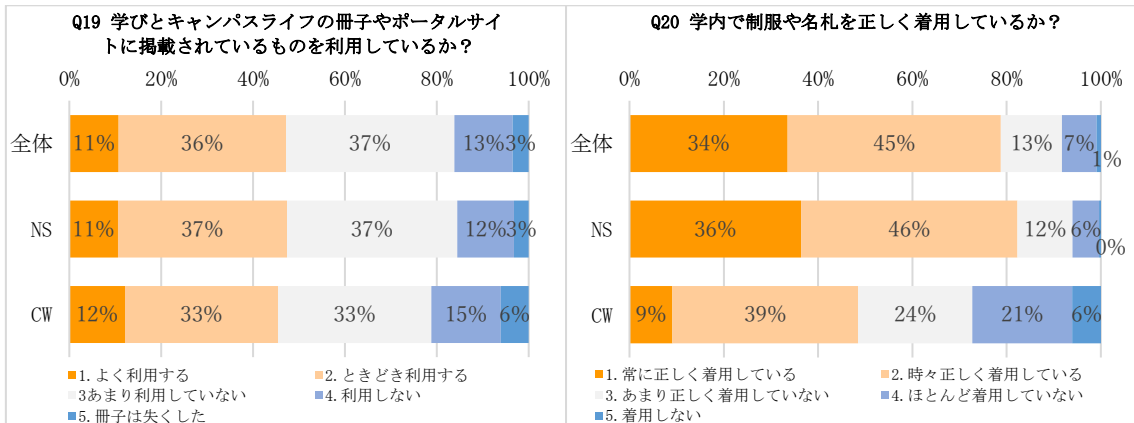


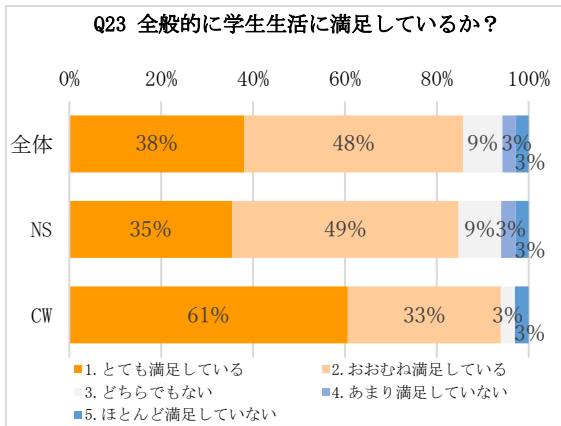
4) 飲食施設について



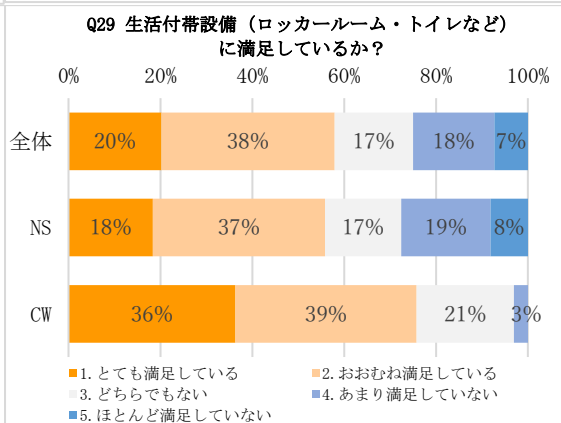
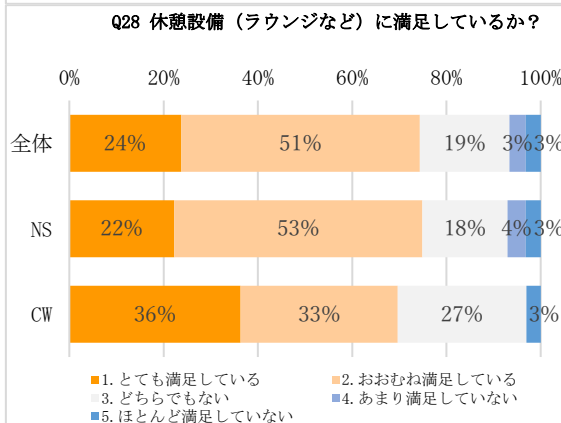
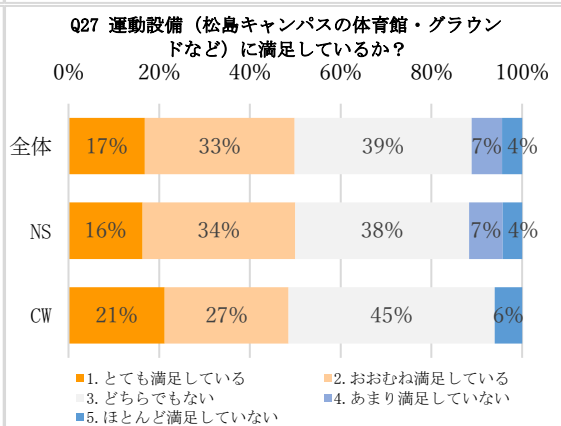
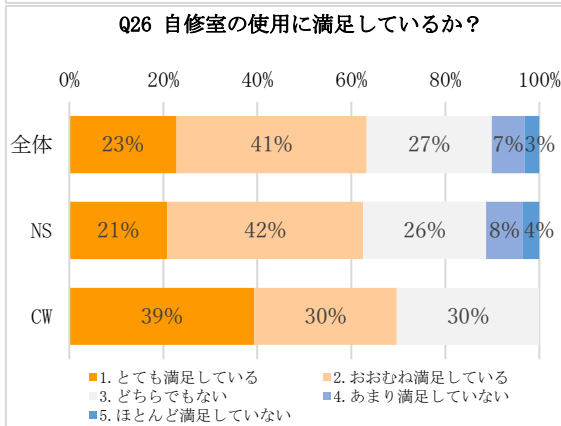
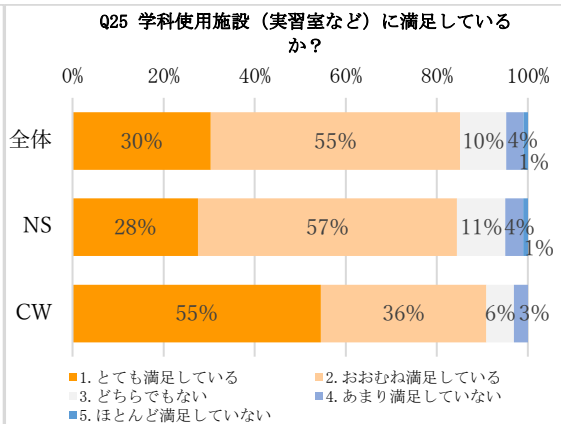
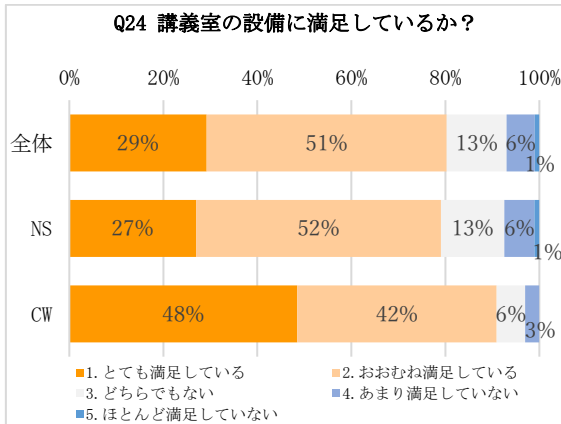


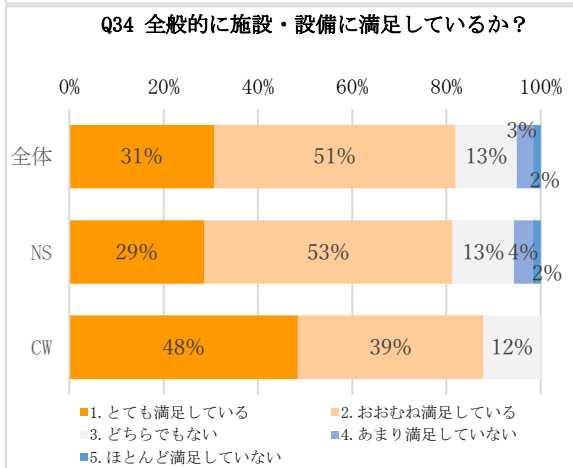
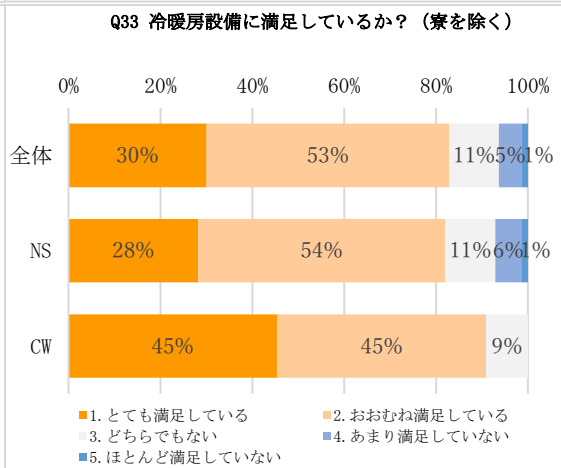
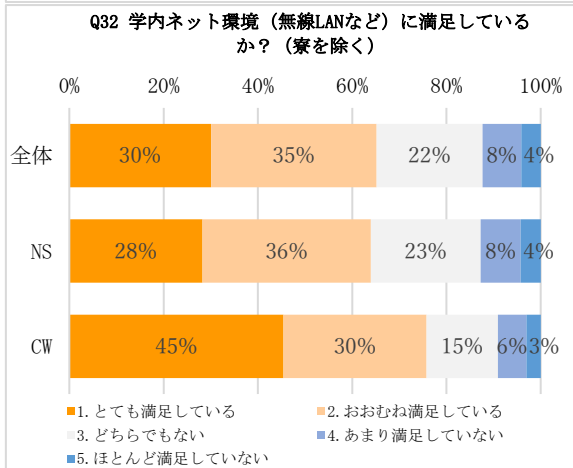
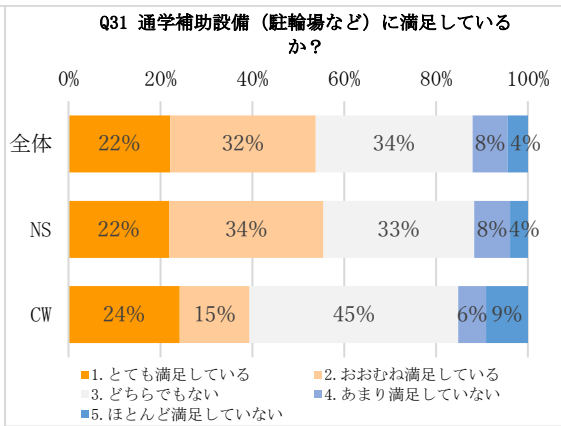
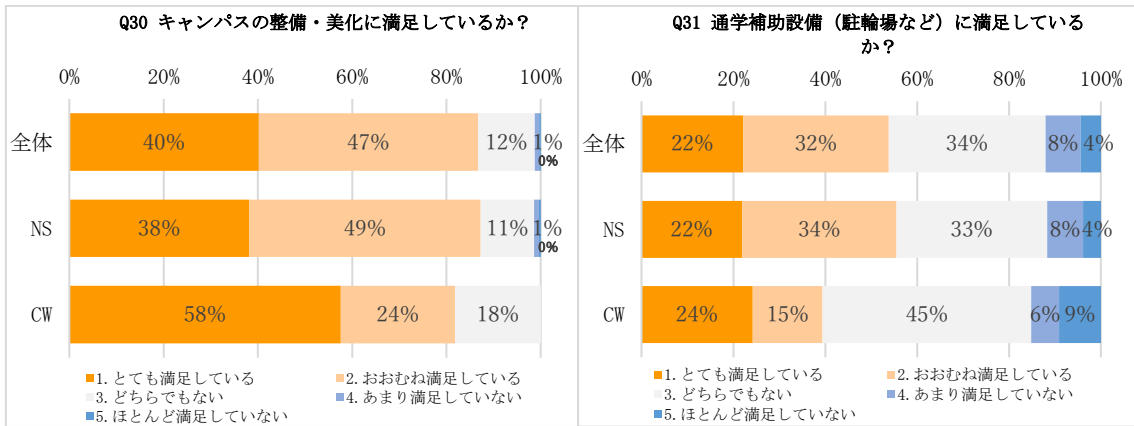
5) その他



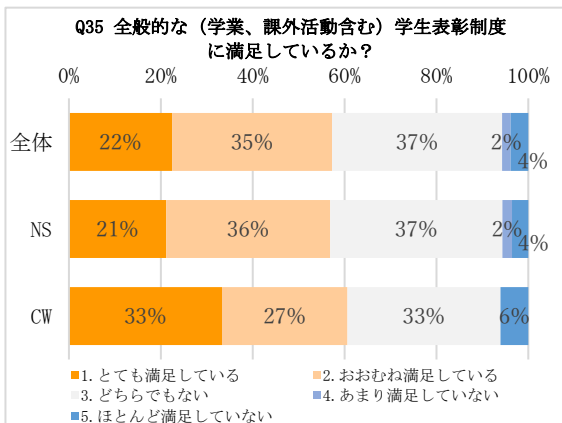


6) 施設・設備について





7) その他



8) 自由記述 (Q36~39)

①岡山キャンパスでの学生生活についての要望・意見

- ・学食の種類と量、販売数が少ない。
- ・Sora Cafe の営業時間を延長してほしい。
- ・全学年がそろう日は休憩場所がなくなる。(4階ラウンジ)
- ・自販機の種類を増やしてほしい。
- ・電子レンジの数を増やしてほしい。
- ・このはな寮で使用する食券を岡山キャンパスでも使えるようにしてほしい。
- ・ロッカーが狭い。
- ・駐輪所に屋根が欲しい。雨が降った時に自転車が濡れて困っている。
- ・岡山駅からでも自転車と利用が可能になると、とても便利だと思う。
- ・自修室を誰でも使えるようにして欲しい。
- ・学友会の行事で具体的にどのようなことをするのか分からず参加しにくい。
- ・継灯式や卒業式に参加する親が直接見れないのは残念。どこかホールを借りてしてほしい。学内は狭い。

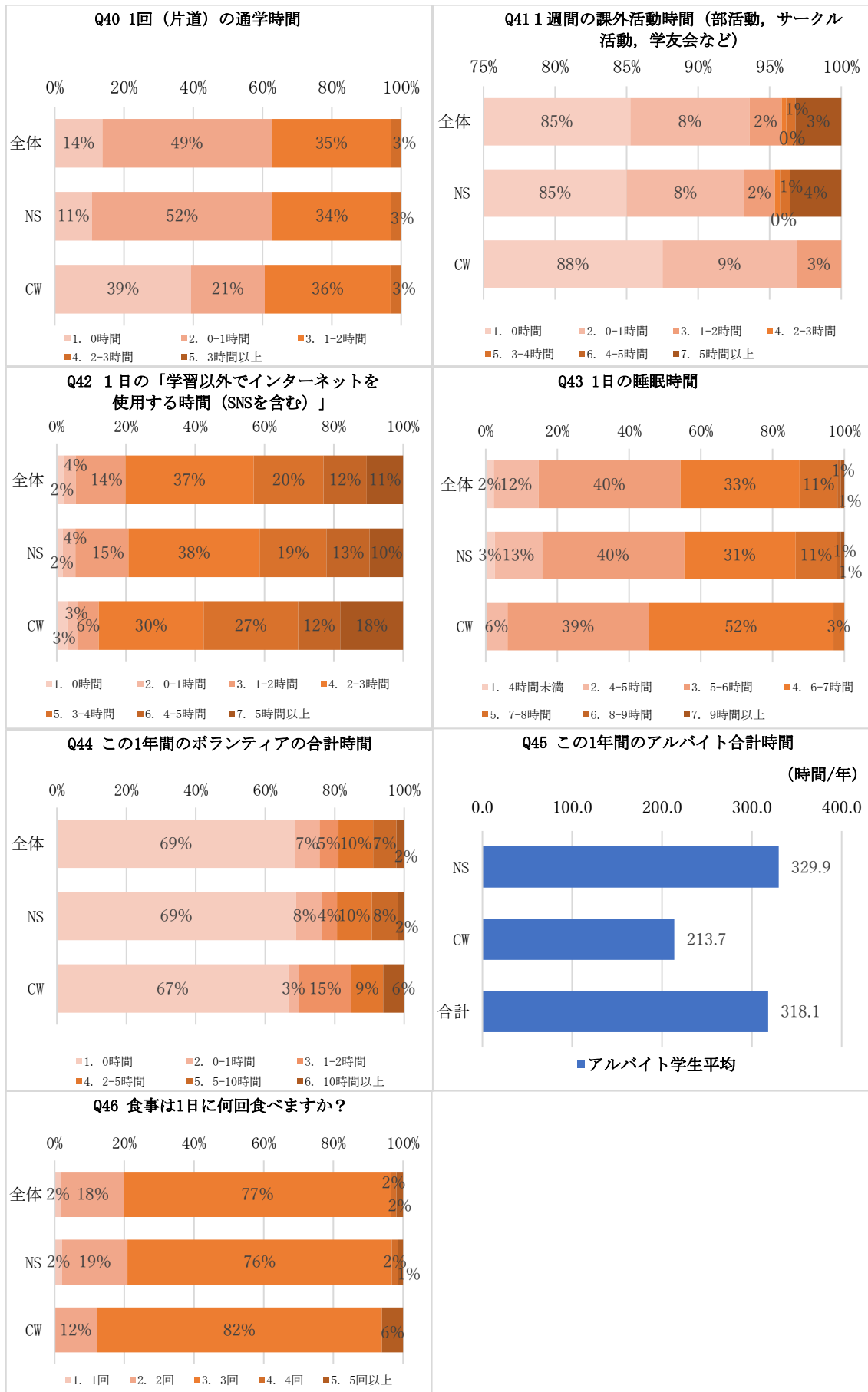
②松島キャンパスでの学生生活についての要望・意見

- ・松島キャンパスでの制服は大変です。電車での荷物が増えるのでしんどいです。
- ・遠い
- ・食堂(このはな寮)のメニューを充実してほしい。

③岡山キャンパスでの講義室の設備・環境について

- ・教室内の環境が悪くて気分が悪くなる時が多々ある(エアコンが効きすぎる・スクリーンを見るのに首が痛くなる)
- ・通気口の下だと風が当たって寒かった。
- ・冷房や暖房が当たる場所と当たらない場所があるので改善して欲しい。
- ・音量を下げてほしい。
- ・プロジェクターが壊れているのか、消えることが多々ある。(302の部屋)消えたら伝えて欲しいと言われてもみんなの前で言うのはきまずい。
- ・302では2つプロジェクターがあって、片方で指さしながら説明されると、もう片方は見れないので、パソコンの中でポインターを使ってほしい。100や302の椅子で何限も連続であるとおしりが痛くなるのが気になる。
- ・302の端っこの椅子(黒と緑の椅子)だとあまり痛いと感じたことがないので、そこにも座れるようにしてほしい。
- ・302の教卓の前の机から時計がまったくみえない。
- ・パソコンを買わせるのにパソコンを使う講義が少ない。

2. 生活実態調査（有効回答者数 NS278～280 CW32～33）



Ⅲ. 分析まとめ

1. 看護学科

1) 学生生活満足度調査

学科支援について、担任・学科教員支援に〔とても満足している・おおむね満足している〕（以後〔満足している〕とする）のは77%以上であった。アドバイザー支援については看護学科全体では満足しているは70%強であったが、本年度直接アドバイザーと関わった1年次生は86.6%であった。〔あまり・ほとんど満足していない〕（以後〔満足していない〕とする）は、いずれも5%前後であった。昨年度は担任・学科教員の支援に満足していない学生が15%近い学年もあり課題であったが、本年度はいずれの学年も満足していない学生は10%未満となった。教員全体が調査結果を真摯に受け止め意識して学生にかかわった成果であると考え。学科行事では満足している学生は6割を超えた。満足していない学生は7.8%であり、昨年度10.1%、一昨年度25%から徐々に減少している。新型コロナウイルス感染予防対策が緩和されたこともあり、学外研修等の行事が増えたことが学生の満足度アップにつながったと考える。

総合的に所属学科に満足しているのは82.8%であることから、学科としての学生支援は充実してきていると考える。

大学や学友会行事については約4割の学生が参加していた。参加した学生の8割は満足しておりその満足度は高いが、自由記述では学友会の行事の具体的な内容が分かりにくく参加しにくいとの意見もあった。教員からの声掛けや代議員への指導、ホームルームで学友会執行部が説明できる時間をとるなど、できるだけ多くの学生が参加できるよう支援する。

『学びとキャンパスライフ』については47.3%が利用すると回答していた。令和3年度は34%の利用しかなかったため担任をはじめ活用を促し、各自で考えて行動するようにとのアプローチにより昨年度は57%まで増えていたが、本年度再び利用率は減少した。ホームルーム等でも『学びとキャンパスライフ』やポータルサイトを使用しながら説明するなど、学生生活には必要かつ役立つものである認識をもたせるような関わりをし、また継続してその重要性を伝える必要がある。

友人関係には90.8%、全般的な学生生活には84.8%の学生が満足しており高い満足度であった。松島キャンパスについて、荷物が増えて大変、制服では大変との意見があった。松島キャンパスでの授業では医療福祉大学の体育館で健康体育があり、その後移動をして医療短期大学体育館講義室で他科目の授業を受けていた。更衣の必要があり、時間的な余裕のなさや荷物の多さを考え、松島キャンパスでの服装の検討を大学に要請する。

今回の調査では回答率の低い学年があったため、回答していない学生の満足度が反映されていない。次年度はできるだけ多くの学生から回答が得られるよう、担任・担当教員は学生の集め方や調査方法の呼びかけなどを工夫し、学生の回答状況にも配慮する必要があると考える。

2) 生活実態調査

学習以外でのインターネット使用時間は2～3時間が4割弱、4時間以上が2割強(22.1%)であり、多くの学生が学習よりもインターネット使用に時間を費やしていた。通学時間は約半数が1時間以内、97%が2時間未満であった。睡眠時間が5時間未満は

15.7%で、8割以上の学生は5時間以上の睡眠が確保できていた。

2. 医療介護福祉学科

1) 学生生活満足度調査

学生支援として担任や教員の支援内容として、満足しているとの回答が8割を超えていた。

また、全般的に所属学科に満足しているかの問いに対しては、満足している学生が7割を超えていた。しかし、全般的に学生生活に満足しているかの問いに対しては、満足しているが8割を超えているが、〔ほとんど満足していない〕、〔どちらでもない〕と答えた学生が数人いた。このことから、学生が満足できていない内容について明らかにするためにも、個々に担任との面談を実施することや、講義中の学生の様子を教員間で共通認識し、想いを早期にキャッチできるように、学生に寄り添った支援を今後も継続していく必要がある。

学科による行事として、学外研修・式典などを実施しているが、これに満足しているとの回答が7割を超えていたが、満足していないとの回答が3割程度あった。またコロナ禍があけて、大学や学友会による行事が増え、それらに参加した学生は全員が満足していたが、参加していない学生が36%いた。今後は学科教員が学友会行事の楽しい様子を伝えるなどの環境調整をし、学生が大学行事に積極的に参加を希望するように支援する。

学年が上がると、『学びとキャンパスライフ』の冊子を紛失した学生の割合が上がるため、1年次から各自で保管しておくことの重要性を伝え、ポータルサイトでも閲覧可能であることをあわせて伝えていく必要がある。制服着用も学年が上がると着用率が減っているため、担任やアドバイザーからも学生の制服着用状況に目を配り、協力して声かけをして正しい制服着用について伝えていく。

2) 生活実態調査

インターネットの使用が、1日の中で5時間以上の学生が若干名おり、講義を受ける姿勢や生活態度に変化がないかに注意を払い、使用方法についても学修時間の確保と共に伝えていく。

ボランティア活動が0時間である学生が半数を超えており、今後参加できるような機会を学科による行事への参加とともに伝えていきたい。

3. 大学全体まとめ及び対策

1) 学生生活満足度調査に関するまとめと対応

学科支援では、担任による支援、教員支援について満足していると回答した学生が約8割で、教員・学科の支援に対する満足が窺える。学科行事に対する満足度は64%だったが、令和4年度は59.0%、令和3年度は30.2%であったので、新型コロナウイルスが流行しているなかでも、学科が工夫して少しずつ行事を再開することにより、満足度が高くなってきたと考える。

また事務室支援には75.1%が、図書館利用に関する支援には81.2%が満足しており、満足していない学生はいずれも3%台であった。両支援ともに満足した学生の割合は昨年度よりアップし、満足していない学生は減少した。事務室での「証明書セルフ発行」や

図書館での「自動貸し出しシステム」導入など、学生にとっては利用しやすい工夫があり、さらに対応の良さにより満足度がアップしたと考えられる。健康支援室については利用している学生は59%で、そのうち〔満足・おおむね満足〕と答えたのは66.1%（全体の39%）であった。

部・同好会は約9割が入部していないか入部しているが活動していない状況であることがわかった。医療福祉大学等とのキャンパスが離れていることで、本学以外の部活動への参加が難しい状況にあるため、本学内で活動できるような環境調整の支援が必要であると考えられる。

大学や学友会行事には44%の学生が参加していた。参加学生のうち81.8%は満足しており（全体では36%）、参加した学生の満足度はかなり高い。しかし現状として、学友会執行部の企画運営力が弱く、全学生への行事参加の呼びかけが効果的にできていない。学友会執行部への指導を強化して学友会行事への支援を手厚くし、学生の満足度を上げることをめざす。

Sora Cafeのサービスを利用している学生は85%で、そのうち75.6%がサービス内容に満足していた（全体では66%）。自由記述には営業時間を長くしてほしい、購入するのに時間がかかる、品数を増やしてほしい、このはな寮の食券も使えるようにしてほしい等の意見が少数あった。飲食場所については68%が満足しており、昨年度の59.1%よりやや増加した。満足していないと回答した学生は15%で昨年度の22.4%より減少した。飲食場所を拡大したことや新型コロナウイルス感染症5類移行にともなう座席数の増加により満足度が高い学生が増えたものと考えられる。アイスクリーム自動販売機導入に関しては、約9割の学生が利用しており、そのうち87.5%が満足していた（全体では77%）。また、パンや菓子などの自動販売機があれば使用したいと答えた学生は9割近くいた。現状から、Sora Cafeにサービス拡大を要請することは難しい面もあるため、それを補うものとして新たに飲食物等の自動販売機導入を検討していくこととする。

『学びとキャンパスライフ（冊子、ポータルサイト）』の利用については、47%が利用すると回答し、本年度は昨年度よりも利用者率が減少していた。学生生活を送るために必要なことがまとめられているため、全教職員は機会があるたびに『学びとキャンパスライフ』を使用して説明し、学生に使い方を認識してもらい利便性に気づくように働きかける。加えて学生が利用しやすいようにポータルサイトを改善し、視認性の向上をめざす。

施設設備面では、実習室、講義室に満足していたのは8割以上で、満足者は多かった。しかし、「講義室の椅子によってはおしりが痛くなってつらい」、「302 講義室では前が見えにくい席がある」等、少数であるが講義室に関する意見が挙がっていた。生活付帯設備（ロッカールーム・トイレなど）に満足していたのは58%、満足していなかったのは25%であり、昨年同様満足者は少なかった。ロッカールームで白衣等に着替える機会が少ない看護学科3年次生では満足していない学生は20%未満であったが、頻繁に更衣を必要とする看護学科1・2年次生では約35%が満足していないと回答していたため、主にロッカールームに関する満足度を示していると推測できる。

講義室については広い講義室では同じ学生が不利な学習環境になることがないように、適宜席替え等をして環境を整える必要がある。また硬い椅子については本学所有の別の椅子の設置を検討する。ロッカーについては、同学年のロッカーを離して配置するなど混

雑を緩和する方法を検討し実施することとする。配置を変えたことでの不都合や状況などを、引き続き観察・聴取していく。

駐輪場について満足している学生は54%で、満足していないのは11.7%であった。昨年度満足していない学生が16%で、駐輪場の屋根設置を希望する学生もいたが、これは設備上困難であったため、それを学生に周知し、代わりに雨合羽置き場を屋内に設置した。その結果、本年度の調査では満足していない学生が減少したと考えられる。

ネット環境については満足していた学生が65%程度で、自由記述にも改善の要望があった。本年度はWi-Fiの基地局の調査・調整を行ったが、それにも関わらず満足していた学生は決して多くない。今後もつながりにくい場所を明確にして、対応可能なものについては調整をする。また本学のWi-Fiは、しばらく繋がらない時間があると自動で回線が切断されるため、それを学生に伝えて理解を促す。

施設・設備については全体の8割以上が満足しており、満足していない学生は5.7%であった。多くの学生が満足している一方、自由記述では改善の要望が多い。その中には、大学や学科主催の式典に保護者が同席できる環境を望む声もあった。改善できるものについては可能な限り実施しているが、設備上困難なものや、エコの観点から導入の可否を考慮する必要があるものもある。施設・設備の改善内容や改善が不可能なものの理由などの情報を学生に開示し、同時に改善不可能な場合の自己での工夫案を提案して学生に理解を求める。

2) 生活実態調査のまとめと対応

課外サークル、部活動の時間を0時間と回答した学生が約9割であった。一方、本年度ボランティアをした学生は31%であった。ボランティアを2時間以上した学生が18.9%で、昨年度の13.5%に比較して5.4%増加していた。その多くは、大学が支援したものであると予測される。課外活動のサークルや部活動は、場所がなく放課後の時間もなかなか取れないために活動が難しいのが現状だが、学外での経験を増やし社会性を身につけるために適宜ボランティアを実施することは可能であるため、今後も教職員が学生のボランティア活動を支援する。

4. 今回の調査の問題点と改善点

今回の調査結果により、設問の表現を再検討した方がよいことがわかった。例えば相談室利用に関する設問では、ほとんどの学生に利用実態がないにもかかわらず、55%の学生が利用しているものとして満足度を回答したなど、実際の数字とはかなり乖離した回答結果が出たことや、一部の学生から「(設問が)長くて答えにくい」との記述があったことなどである。そのため、今後は学生にわかりやすい表現で誤認を防ぎ、回答に負担の少ない設問文を検討したいと考える。

また、インターネットでの調査であったため学生の回答完了状況が見えず、回答率が低い集団があった。今後は回答率を上げるためにも、調査に関する説明を的確に行うことと、その場で回答するように回答に必要な時間を学内で設けるなど、実施方法にも注意が必要である。